

2026 年 9 月 29 日(火)

報道関係各位

第 26 回 山崎貞一賞 2 分野 3 名の受賞者を決定

一般財団法人材料科学技術振興財団（所在：東京都世田谷区、理事長：川上 正舒）は、山崎貞一賞 選考委員会（委員長：松本 洋一郎）を経て 9 月 15 日（火）に実施した理事会にて、今年度の受賞者を下記 2 分野 3 名に決定いたしました。

今年度は、材料分野に「LPSO 構造とキンク強化による革新的マグネシウム合金の開発」、半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス分野に「深層学習を用いた音源分離による音声遺産の復元および情報端末上でのリアルタイム分離の実現」の業績を選出いたしました。

受賞者には、賞状および副賞として 300 万円、メダルが贈呈されます。

記

第 26 回 山崎貞一賞 受賞者（敬称略）

◆【材料分野】

受賞題目「LPSO 構造とキンク強化による革新的マグネシウム合金の開発」

熊本大学 先進マグネシウム国際研究センター 卓越教授 河村 能人

◆【半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス分野】

受賞題目「深層学習を用いた音源分離による音声遺産の復元および
情報端末上でのリアルタイム分離の実現」

ソニーグループ株式会社
デジタル&テクノロジープラットフォーム
コーポレートテクノロジーセンター
Ethical Creative & Protective AI 開発部 統括部長

光藤 祐基

ソニーグループ株式会社
デジタル&テクノロジープラットフォーム
コーポレートテクノロジーセンター
Ethical Creative & Protective AI 開発部 担当部長

高橋 秀介

以上

第26回 山崎貞一賞 受賞概要

材料分野

※敬称略

受 賞 者	河村 能人（かわむら よしひと）
所 属	熊本大学 先進マグネシウム国際研究センター 卓越教授
生 年 月 日	1960 年 8 月 20 日生（66 歳）
出 身 地	石川県七尾市
題目：「LPSO 構造とキンク強化による革新的マグネシウム合金の開発」	
受賞研究の概要・受賞理由 河村氏は、急速凝固粉末冶金（Rapidly solidified powder metallurgy、RS-PM）法による高強度非平衡 Mg 合金の開発研究に取り組み、従来の概念を覆す革新的な高強度 Mg 合金（たとえば、Mg-1Zn-2Y 合金）を創製するとともに、それらの合金中に「長周期積層構造（Long-period stacking ordered structure、以下 LPSO 構造という）」という新奇な原子配列構造を見出した。鑄造法でも LPSO 構造が形成され、その押出材が従来の Mg 合金よりも高強度であることを明らかにするとともに、「キンク強化」による新規な材料強化法を発見した。LPSO 構造が密で周期的な硬質・軟質ナノ層状構造（『ミルフィーユ構造』と命名）であることを明確にし、LPSO 構造の形成メカニズムやキンクの形成・強化機構の解明を行い、日本発の新しい材料学術領域を創出した。さらに、これら Mg 合金の実用化を目指して、高耐食化と不燃化等の材料特性の改善を図って実用材料に仕上げるとともに、大型素材の製造基盤技術開発と種々の輸送機器や医療デバイスの開発を進めた。その結果、競技用車いすや肢装具などを既に実用化し、エンジンピストンやコンプレッサーホイールの実用化研究を展開している。さらに航空機・ロケットのストリンガ・トラス部材や生体吸収性医療機器デバイスへの応用研究が進んでいる。 以上の理由から、河村氏を第26回山崎貞一賞材料分野の受賞者とする。	

半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス分野

※敬称略

受 賞 者	光藤 祐基（みつふじ ゆうき）
所 属	ソニーグループ株式会社 デジタル&テクノロジープラットフォーム コーポレートテクノロジーセンター Ethical Creative & Protective AI 開発部 統括部長
生 年 月 日	1978 年 12 月 4 日生（47 歳）
出 身 地	千葉県柏市
受 賞 者	高橋 秀介（たかはし しゅうすけ）
所 属	ソニーグループ株式会社 デジタル&テクノロジープラットフォーム コーポレートテクノロジーセンター Ethical Creative & Protective AI 開発部 担当部長
生 年 月 日	1977 年 7 月 11 日生（49 歳）
出 身 地	新潟県上越市
題目：「深層学習を用いた音源分離による音声遺産の復元および情報端末上でのリアルタイム分離の実現」	
受賞研究の概要・受賞理由 光藤氏、高橋氏は、複数の音源が混合した音響信号から所望の音源からの音のみを高精度に抽出する音源分離技術の実現を目指し、GPU・CPU及び半導体メモリの進化を利用して、世界で初めて本格的に深層学習を適用した音源分離の研究開発に取り組んだ。従来、困難であったボーカル、楽器、セリフ、効果音、背景音などの分離に対し、独自の深層学習モデル構造、学習手法、データ拡張技術を開発し、2015年以降、国際コンペティションで3大会連続首位を獲得するなど、世界最高レベルの分離性能を実現した。さらに、最先端半導体技術を利用した高性能・省電力・低遅延化技術の採用により、スマートフォン、ヘッドフォン、テレビなどの情報端末上での小型・省電力・リアルタイム音源分離にも成功した。これらの技術は、映画や音楽の音声遺産の復元・立体音響化、放送アーカイブの再活用、音楽配信サービスにおけるカラオケ機能、テレビやスマートフォン及びヘッドフォン・イヤホンなどの音声明瞭化機能などとして広く実用化されている。光藤氏と高橋氏は、新しい音源分離技術を研究開発段階から主導し、社会実装へと発展させ、音声遺産の復元と新たな音響体験を創出する新分野を切り開いた。 以上の理由から、光藤氏、高橋氏を第26回山崎貞一賞半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス分野の受賞者とする。	

山崎貞一賞について

山崎貞一賞は、財団法人材料科学技術振興財団の初代理事長を務めた山崎貞一氏の科学技術および産業の発展に対する功績、人材の育成に対しての貢献を記念し、科学技術水準の向上とその普及啓発に寄与することを目的として平成13年（2001年）に創設されました。初代選考委員長として白川 英樹博士（筑波大学名誉教授、2000年 ノーベル化学賞受賞）、2代目選考委員長として増本 健博士（東北大学名誉教授）を迎え、現在は松本 洋一郎博士（東京大学名誉教授）が選考委員長を務めています。

本賞は、当財団の定款第4条の事業内容に対応した「材料」、「半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス」、「計測評価」、「バイオ・医科学」の4分野からなり、論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた創造的業績をあげている人が表彰対象となります。第26回山崎貞一賞では「材料」、「半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス」の2分野に対し贈呈いたします。これまでの受賞者は、全分野合計で136名にのぼっています。

一般財団法人材料科学技術振興財団（MST）について

当財団は昭和59年（1984年）8月に設立されました。設立以来、「先端的な科学技術分野における新材料に関する基礎的研究を行うとともに、新材料の解析・評価を実施すること等により材料科学技術の振興を図り、もって我が国の経済社会の発展と国民生活の向上に寄与すること」を目的として幅広い活動を展開しています。

- ・一般財団法人材料科学技術振興財団 山崎貞一賞事務局 TEL：03-3415-2200
- ・一般財団法人材料科学技術振興財団について <https://www.mst.or.jp/>
- ・山崎貞一賞について <https://www.mst.or.jp/yamazaki/>